

保護者の皆様

学校再開に向けて

生徒達が学校に戻ってきました。5月26日(火)、28日(木)の2日間、今年度初めて、生徒を校舎内に入室させる予備登校を行いました。生徒達の緊張感も大きかったようですが、まずは本格的な学校再開に向けて、生徒と一緒にスタートが切れました。

2ヶ月遅れの一学期スタートにあたりまして、保護者の皆様より多大なご支援とご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。教材配付の2回の登校日にも感じた事ですが、ほとんどの生徒が時間どおり、約束事を守って登校してくれました。連絡方法は「学校緊急メール」というたった一つの手段しかありませんでした。それでも、正確に時間を守って登校し、私達の指示通り行動してくれた事は、保護者の皆様のお声掛けがあってこそと、感謝の気持ちで一杯です。

3ヶ月という長期の休校期間、保護者の方々から「何かご協力できる事はありませんか。」「大変な事があればお話しください。」等、多くの励ましのお声掛けやご連絡をいただき、私達教職員は本当に励まされ続けました。わざわざご来校いただき、励ましていただきました事も、本当に嬉しく、心に響きました。現在は、学校支援地域本部の方々に、登校時に生徒を見守っていただいております。重ねて御礼申し上げます。

先週の2回の予備登校は、学級を2グループに分けての分散登校でしたが、生徒達は検温カードを昇降口で提出し、社会的距離もしっかりと確保し、手洗いもてきぱきと行い、素晴らしかったです。その素晴らしさに対して、喜びと同時に、かなり無理しているのではないかと心配にもなりました。

26日(火)の最初の登校日は、様々な気持ちで学校に足を運んできたと思います。私達には理解できないような不安や思いがあったようです。表情が硬かった生徒もかなり多くいました。「おはようございます」のあいさつもとても声が小さく、学級内では静寂の時間が長く、緊張感が感じられました。2度目の登校日の28日(木)には、笑顔が少しずつ多くなり、表情にも明るさが増してきたようでした。

世界中がこの新型コロナウイルス感染拡大で、大変な事態になってしまいました。多くの方々が傷つき、社会不安と同時に個々人や家庭の様々な不安も増しました。そして、九州地方では、第2波が襲っているようです。緊急事態宣言が解けても、まだまだ予断を許さない状況の中、子供達の緊張や不安はとても大きいと思います。わずかな時間でしたが、2回の登校は生徒にとってかなり疲れたのではないかと思います。社会的に一番弱い立場に置かれている所に大きなしわ寄せが向きます。それが子供達である事は間違いありません。心身ともに、すぐには元通りの状態には戻らない事が予想されます。

先日、児童心理の専門家の方とお話しする機会がありました。「生徒を追い込んではいけません。解決を急がせてはいけません。きっと今は、言葉で表現できない、自分でも理解不可能な気持ちでいると思います。少しずつ、焦らずに日常を取り戻してください。」とアドバイスをいただきました。そして今、大切な事は「共に歩むのではなく、一緒に歩く」という事だと教えていただきました。「共に歩む」のではなく「一緒に歩く」その違いを考え続けながら、長町中学校の教職員一同で、生徒達のために取り組みたいと思います。生徒達が戻ってきてくれて本当に嬉しいです。今後とも保護者の皆様にお力添えいただければ幸いです。